

1

教員・授業・勉強・研究について

興味 8

授業に興味がある学生ほど、早稲田が好き

授業に興味がある 学部学生 52.0%、大学院学生 73.3%

授業に対する満足度 10

授業への興味に比して低い満足率

授業への満足こそ、大学への満足

有用性の評価 12

勉強が将来役立つと考える学生ほど充実感がある

勉強が将来役立つと思う 学部学生 36.3%、大学院学生 62.2%

出席率 13

学生全体の55%が出席率9割以上

専門職課程では、出席率「90～100%」が94.4%

授業科目の選択基準 14

科目選択の基準は内容

内容重視の学生ほど出席率が高い

留学 15

留学への不安は、まず費用、そして生活

留学への不安 「留学費用」 60.3%、「外国での生活」 37.1%

教員との会話 16

短時間でも教員と会話を「している」学生は20.7%

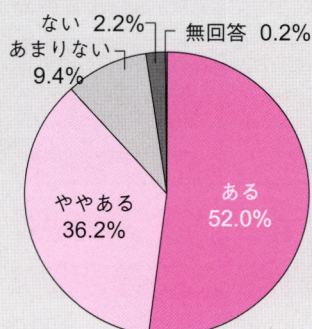
学年によって比率も相手も異なる

教員との関係 18

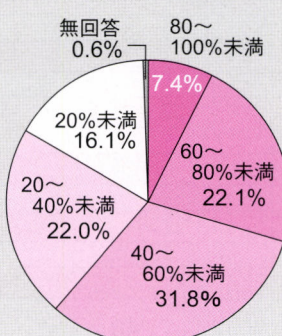
教員との関係の基礎は学ぶこと

教員と話すことは大学生生活の充実感を高める

Q 大学の授業に興味がありますか？
(学部)



Q 今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？
(学部)





授業に興味がある学生ほど、早稲田が好き

興味



授業に興味が「ある」

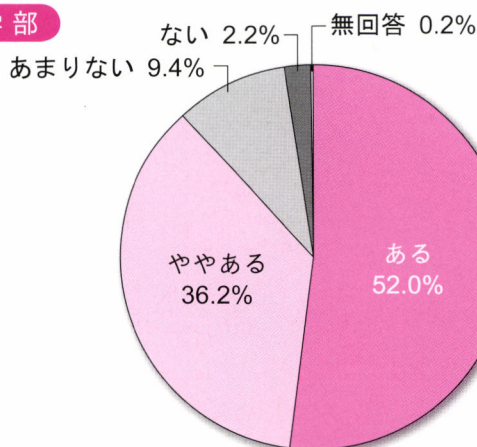
学部学生 **52.0%**、大学院学生 **73.3%**

授業に対して興味「ある」と答えた学生は全体で55.8%でした。この比率は学部学生よりも大学院学生の方が高くなっています。ただし、「ある」と「ややある」をまとめると、学部と大学院でほぼ同じになります。したがって、授業に対する興味は全体として高いといえるでしょう。学部学生の中では、学年による差はほとんどありません。

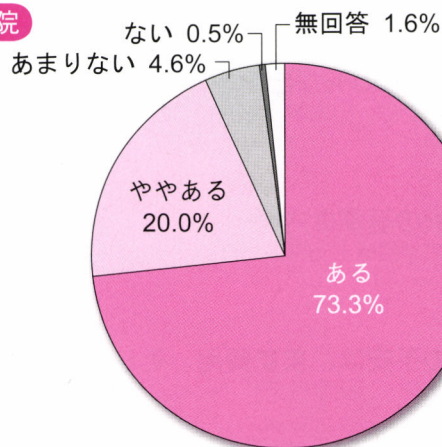
1年生と4年生がほぼ同じ結果であることから、授業に対する興味は、学ぶ内容の変化とは関係がないといえます。一方、大学院学生では、課程間で差が見られます。専門職課程では興味「ある」と答えた学生の比率は90%に達しており、授業に対する意欲や関心が高いことが分かります。

大学の授業に興味がありますか？

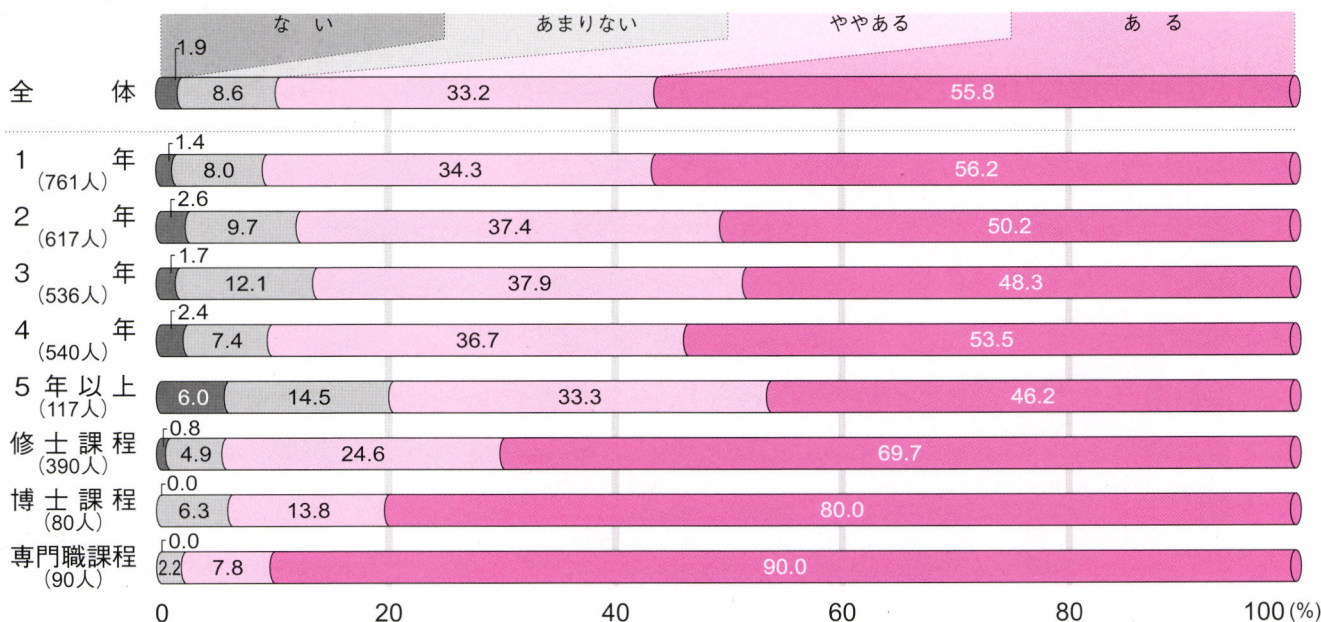
学部



大学院



大学の授業に興味がありますか？ 学年別



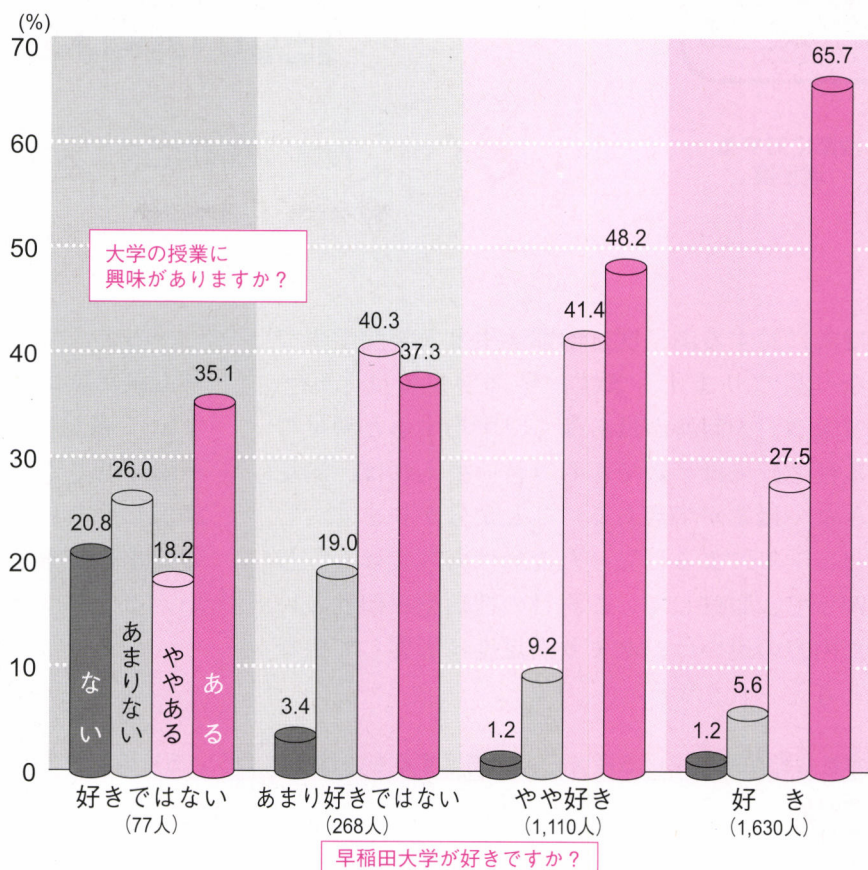
授業に対する興味と早稲田大学への愛着には、強い相関が見られます。

授業に興味を持てるかどうか、大学への愛着を左右することが示唆されています。

このことは、早稲田大学が好きである（あるいは、好きではない）理由にもはっきりと表れています。早稲田大学が好きだという理由として、44.3%の学生が「教育・研究内容」、「教育・研究レベル・活発さ」、「教員」を挙げています。逆に、好きではないとする理由としても、58.3%の学生が「教育・研究内容」、「教育・研究レベル・活発さ」、「教員」を挙げています。なお、「校風」という回答にも、教育研究の在り方や教員と学生のかかわり方などが含まれている可能性があります。

クロス
集計

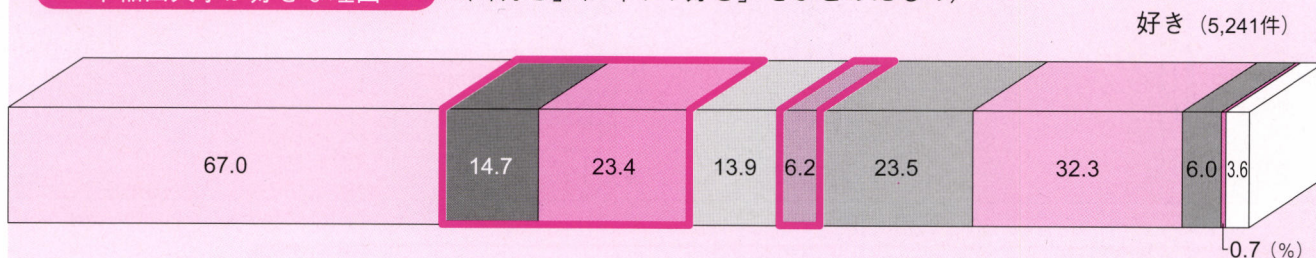
早稲田大学が好きですか？／凡例 大学の授業に興味がありますか？



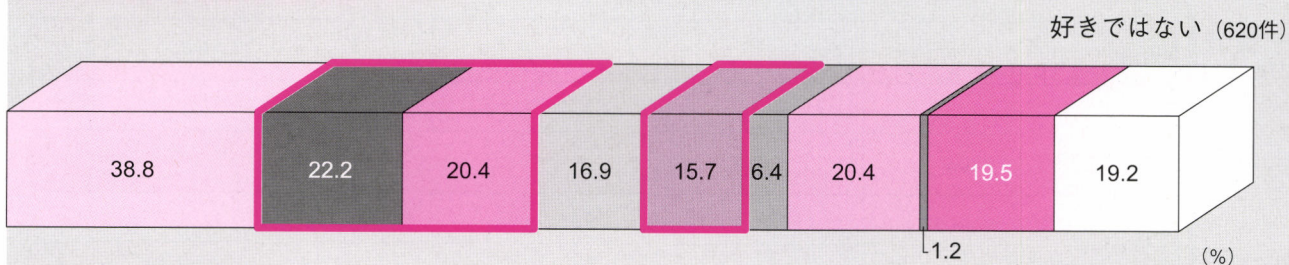
クロス
集計

早稲田大学が好きですか？／凡例 その理由はどういうところにありますか？〔複数選択可〕

早稲田大学が好きな理由 (「好き」、「やや好き」をまとめたもの)



早稲田大学が好きではない理由 (「好きではない」、「あまり好きではない」をまとめたもの)



伝統・校風・雰囲気
 教育・研究内容
 教育・研究レベル、活発さ
 施設・設備
 教員

体育各部・サークル活動
 交友関係
 著名なOB・OG
 職員の対応
 その他



授業への興味に比して 低い満足率

授業に対する
満足度



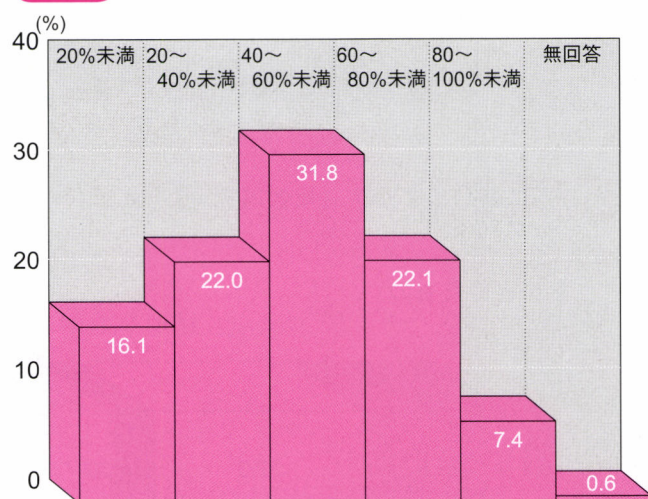
授業への満足こそ、大学への満足

授業に対する満足度は学部学生と大学院学生でかなり異なります。まず、学部学生では「40～60%未満」の回答が最も多く、平均すると満足できる授業はほぼ半数である（言い換えれば、満足できない授業が半数ある）ことが分かります。しかし、学年による目立った変動はありません。したがって、履修している科目の種類や専門性といった内容の違いは、あまり満足度に影響していないと考えられます。

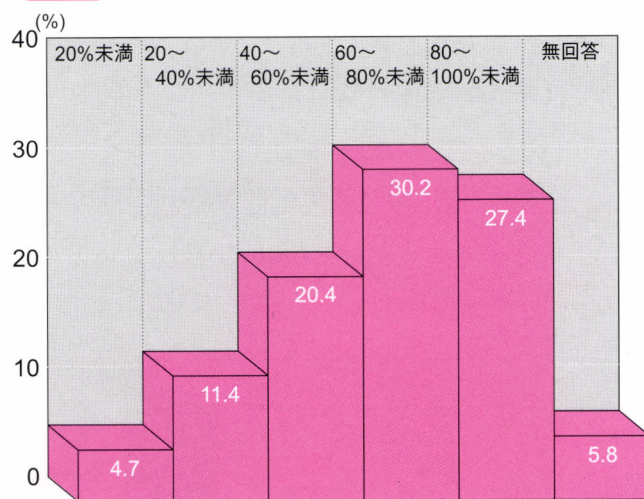
一方、大学院学生では、全体として学部学生よりも満足度が高くなっています。ただし、課程によって満足度の様態が異なり、専門職課程での不満の低さが目立ちます。60%未満以下の回答は20%しかありません。高度な専門性を求める学生の要求に授業が対応していることを表しているといえるでしょう。

今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

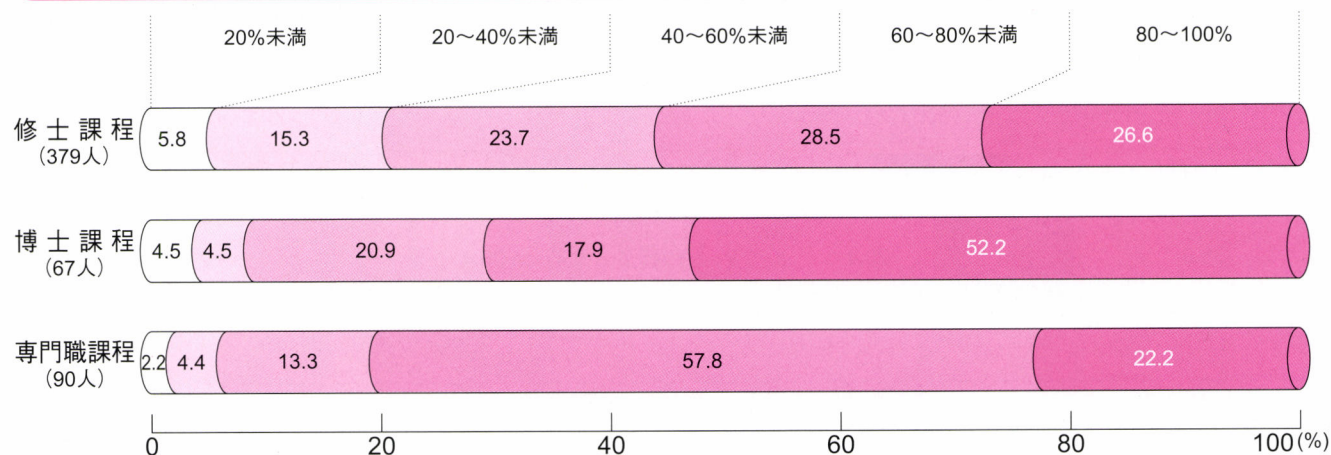
学部



大学院



大学院 今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？ 課程別



学部、大学院とも、授業に対する興味と満足度には相関があり、興味のある人ほど、満足できる授業が多いと評価しています。しかしながら、学部学生の場合、興味は「ある」から「ない」へと次第に減少しているのに対し、満足度は「40～60%未満」を中心に分布しており、興味が「ある」と答えている学生でも、満足できる授業は平均すると60%程度であることが分かります。

充実した授業を体験できることは、入学後の大学への満足を左右します。すなわち、授業に対し

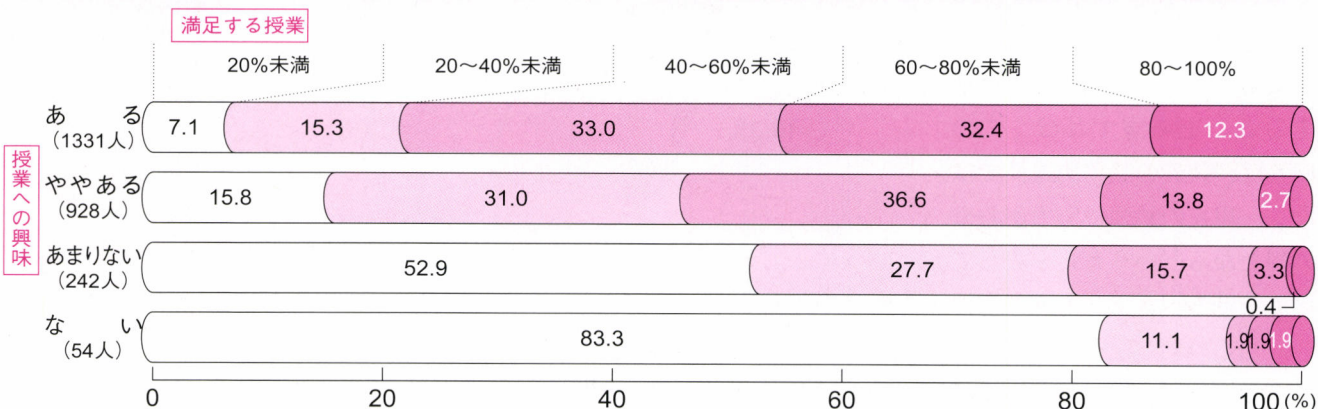
て満足している学生ほど、入学した学部・研究科への満足度が高くなっています。このことは、自由記述の回答にもはっきりと示されています。自由記述で言及された問題点のうち、27.7%は授業や教員に関連したものでした。そこにはさまざまな問題点や提言が述べられています。その一方で、充実した授業も数多く存在します。自由記述で言及された良い点のうち、15.0%はそうした授業について述べたものでした（自由記述回答の概要は61、62頁を参照）。

クロス
集計

学部

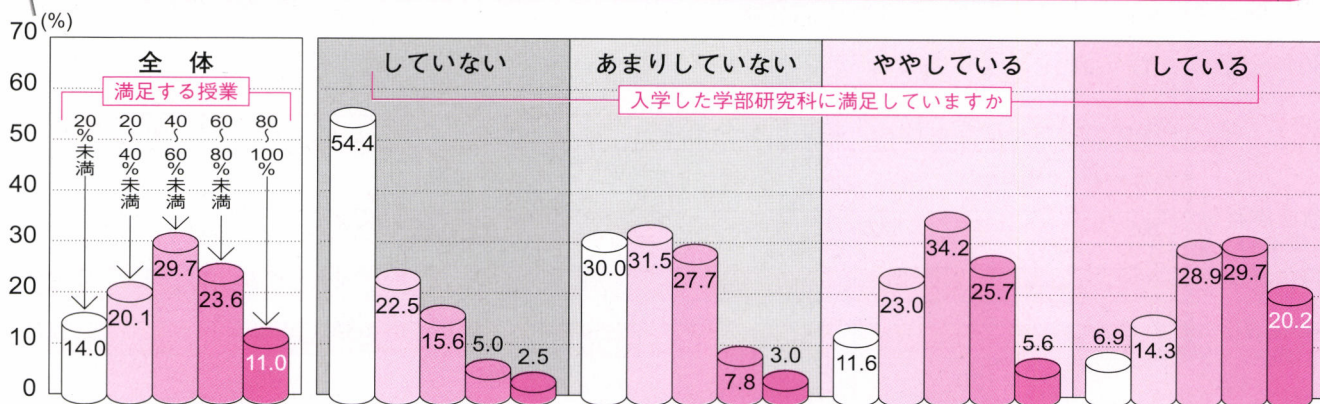
大学の授業に興味がありますか？／

凡例 今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

クロス
集計

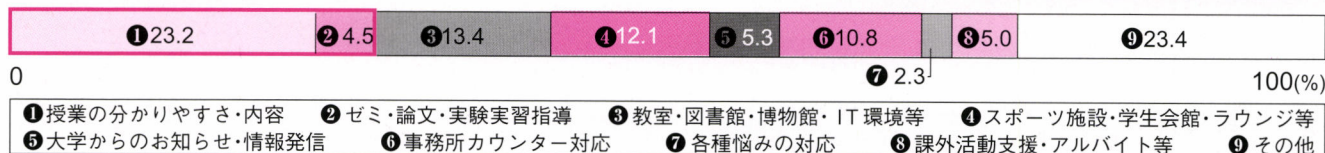
入学した学部、研究科に満足していますか？／

凡例 今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

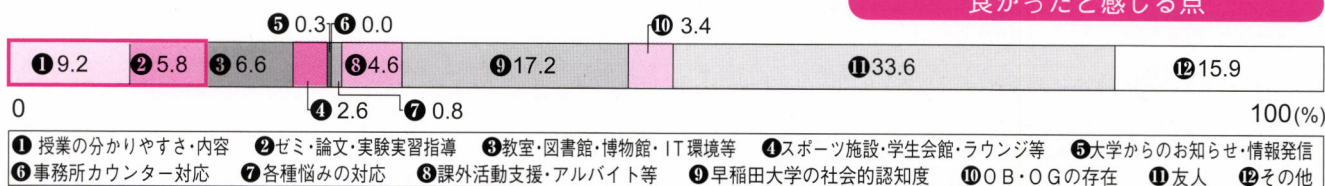


記述回答（無回答は除く）

工夫・改善の余地があると感じる点



良かったと感じる点





勉強が将来役立つと考える学生ほど充実感がある

有用性の評価

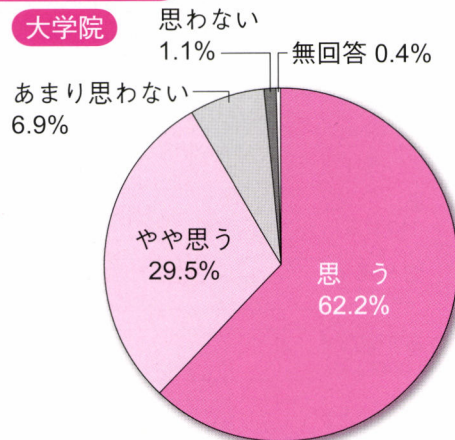
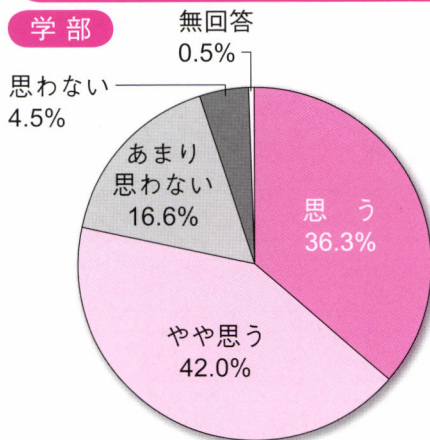


勉強が将来役立つと「思う」
学部学生 **36.3%**、大学院学生 **62.2%**

大学での勉強が将来役立つと「思う」と回答した学生は全体で41.0%です。学部学生では、学年による差はほとんどありません。在学中に進路が変わったり、具体化したりすることを考慮すれば、この回答は、狭義の職務関連性ではなく、現在の勉強や努力が将来の糧となるという考えを表していると見るべきでしょう。

一方、大学院学生では、学部学生よりも役に立つと評価しています。この評価には課程間で差が見られ、修士課程に比べ、博士課程と専門職課程で高くなっています。中でも専門職課程では、「思う」と答えた学生の比率は80%を超え、博士課程と同程度となっています。

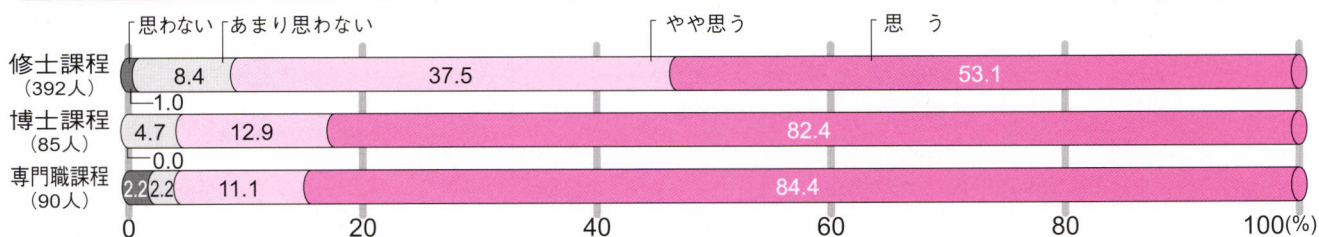
大学での授業や研究勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？



専門職課程の場合、大学での授業や勉強が職務上の必要と密接に結び付いているためでしょう。

現在の勉強が将来役立つと感じている人ほど、大学生活が充実していることが分かります。

大学院 大学での授業や研究勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？ **課程別**

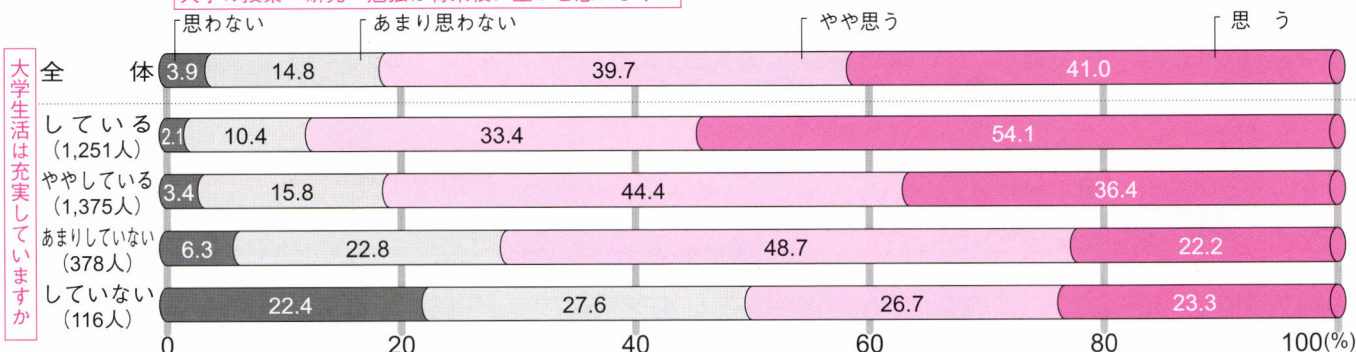


クロス集計

大学生生活は充実していると思いますか？

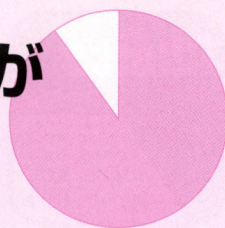
凡例 大学での授業や研究勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？

大学の授業・研究・勉強は将来役に立つと思いますか





学生全体の55%が 出席率9割以上



出席率



専門職課程では、出席率「90～100%」が**94.4%**

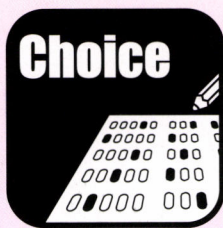
出席率が「90～100%」と回答した学生は全体の半数を超えていますから、出席率は高いといえます。出席率と最も関係の深い要因は学年です。学部学生の場合、学年が上がるにつれて、出席率は低下していきます。ただし、この結果は、調査の時期が入学初頭であり、また就職活動の時期とも重なっていることを考慮する必要があります。

大学院では、全体として出席率が高くなってい

ます。ただし、課程によって差が見られます。修士課程と博士課程ではほぼ同じ結果ですが、専門職課程では「90～100%」を選択した学生が94.4%にのびります。この数値は、實際上、ほとんどの学生が履修した授業にすべて出席していることを示しています。この結果は、これまで見てきた、専門職課程の学生の授業に対する興味や学ぶことへの関心の高さを反映しているといえるでしょう。

あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？ 学年別





科目選択の基準は内容

授業科目の
選択基準



内容重視の学生ほど出席率が高い

科目選択の基準は、「講義内容」、「授業形態」、「担当教員」を内容への関心、「出席チェックの有無」と「単位取得の難易」を結果への関心にまとめることができます。学部学生の大半が科目の選択で内容を重視しています。ただし、この比率は出席率によって異なります。内容を重視した選択をしている人ほど、出席率が高くなっています。出席率が50%未満の学生は、出欠を取らず、単位取得が容易な授業を選んでいることが分かります。

興味深いのは、この学生では「曜日・時間帯」を基準とすることが最も少ないことです。もともとあまり出席するつもりがないので、曜日・時間は考慮しないということなのでしょう。

大学院学生も、学部学生と同様の相関が認められました。ただし、出席率が低い人は少数であるため、出席率の変化に伴う選択率の明確な変動が見られたのは、「単位取得の難易」だけでした。

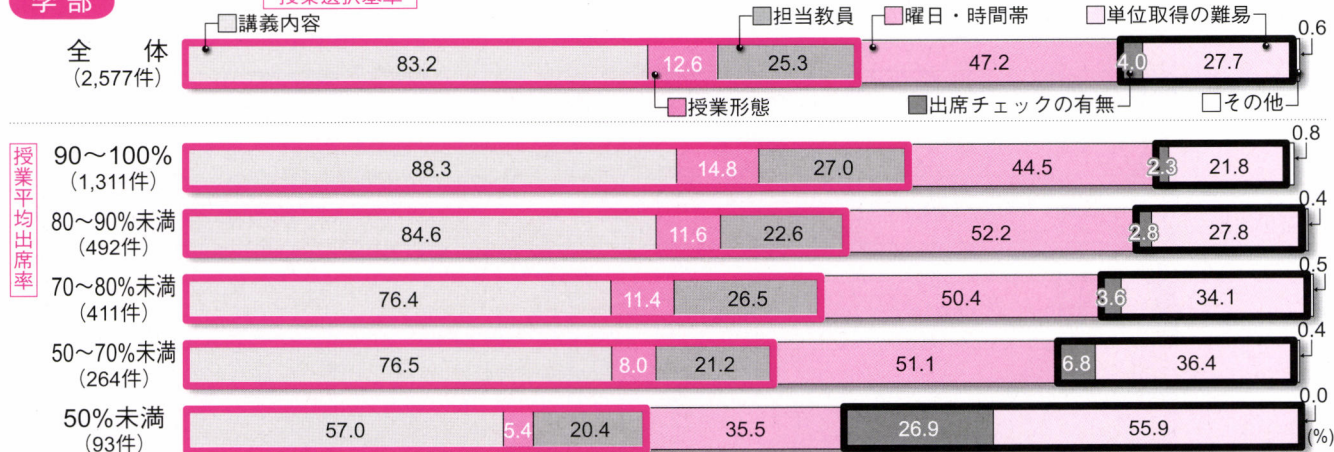
クロス
集計

あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？／

凡例 あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？〔複数選択可〕

学部

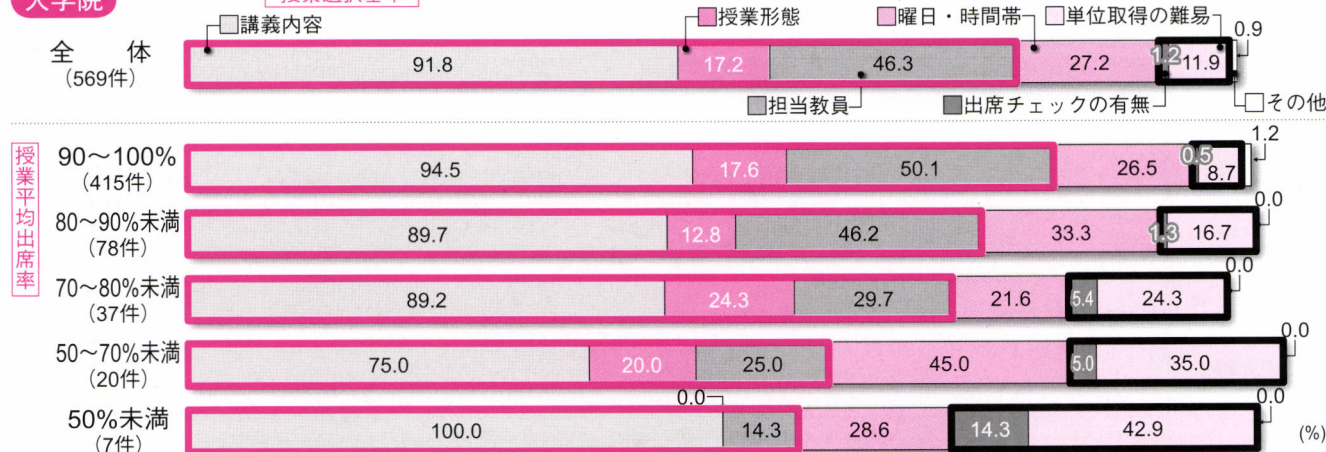
授業選択基準



授業科目選択の仕方には、学年による違いがありませんでした。

大学院

授業選択基準





留学への不安は、 まず費用、そして生活

留 学



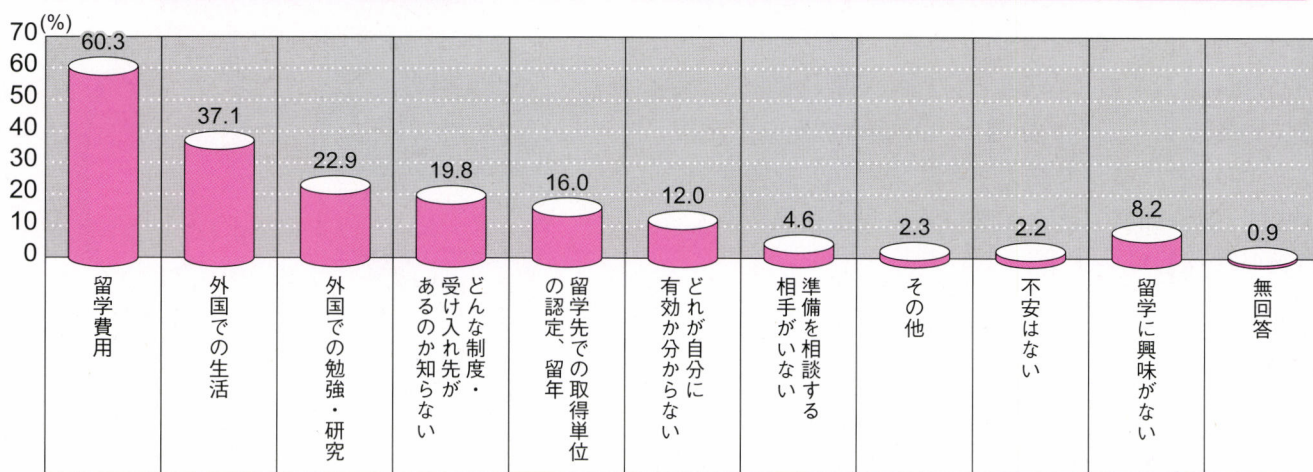
留学への不安

「留学費用」**60.3%**、「外国での生活」**37.1%**

留学への不安として、半数以上が費用を挙げています。次いで、外国での生活、勉強と研究とな

っています。この質問に対する回答は、他の質問の回答とほとんど関連がありませんでした。

もしあなたが留学するとすれば、留学について、以下に挙げる点で不安になる・躊躇する要素はありますか？ [複数選択可]



コラム

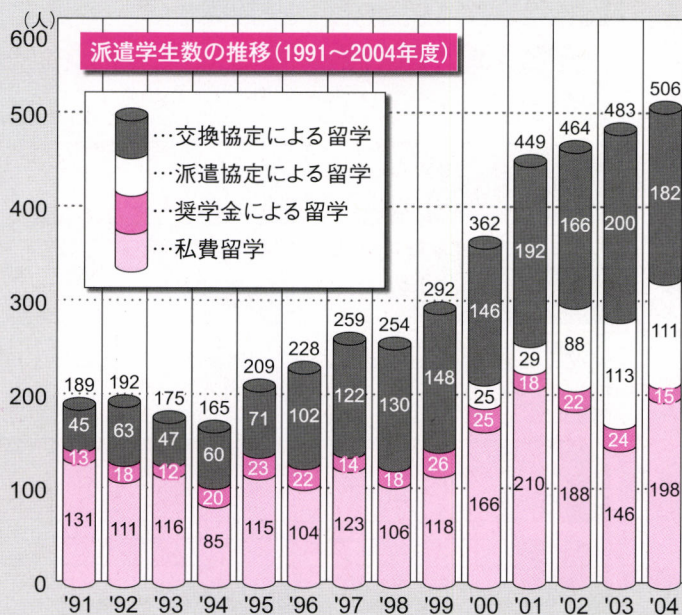
留学の不安として一番多かった費用の問題。留学を目指してそのための費用捻出をアルバイトの目的としている学生も年々増加しています（5章55頁コラム参照）。ひとことに留学といっても、最も負担の多い私費留学から、早稲田大学の学費を納めることで先方の学費が免除となる交換協定留学、派遣協定留学、学費以外に生活費の支援も得られる奨学金付きの留学まで、負担の幅はまちまちです。異文化社会での生活上の不安も、実際に留学した人の体験を知ることにより解消されることもあるでしょう。さまざまな不安は、正確な情報を集め、知ることによって解消されることもあります。そのためにも、留学センターを活用してみてください。

■留学センター URL：

[URL] <http://www.waseda.jp/cie/index-j.html>

〔出典〕数字で見る早稲田

<http://www.waseda.jp/jp/databook/2004/exchange.html>





短時間でも教員と会話を「している」学生は20.7%

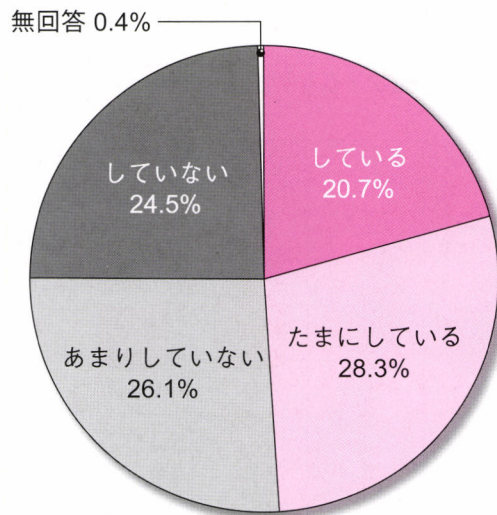
教員との会話



学年によって比率も相手も異なる

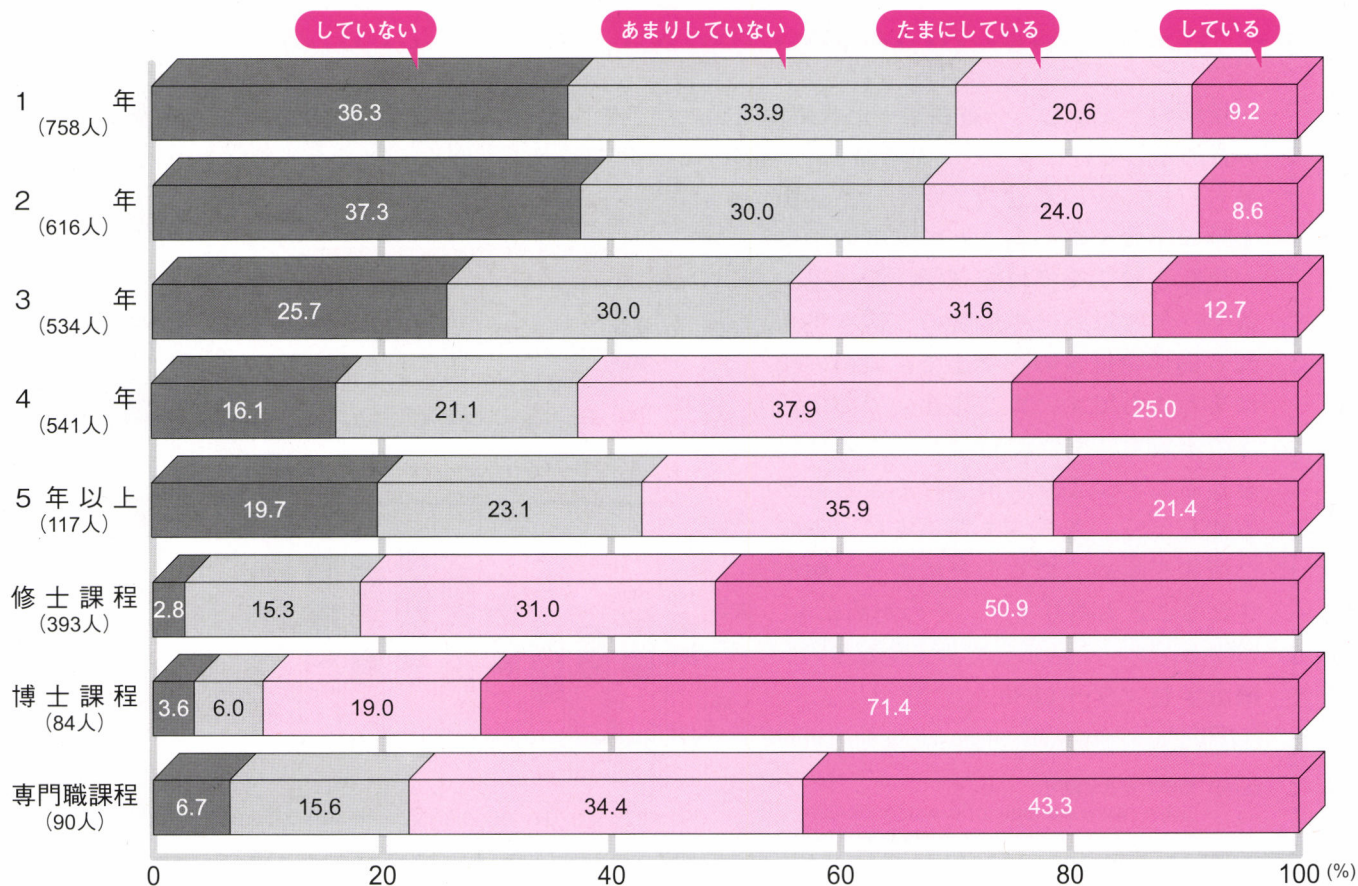
短時間でも教員と話を「している」という回答は、全体で20.7%でした。これには学部と大学院では大きな差があります。まず、学部学生では、話を「している」という比率は13.6%です。これには、はっきりとした学年差があります。1、2年生はほぼ同じ傾向であるのに対し、その後は3年、4年と上昇していきます。一方、指導がより緊密になる大学院学生では、全体として話をする比率が高くなります。中でも、博士課程で話をしている学生の比率が多く、71.4%に達しています。

短時間でも教員と話をしていますか？

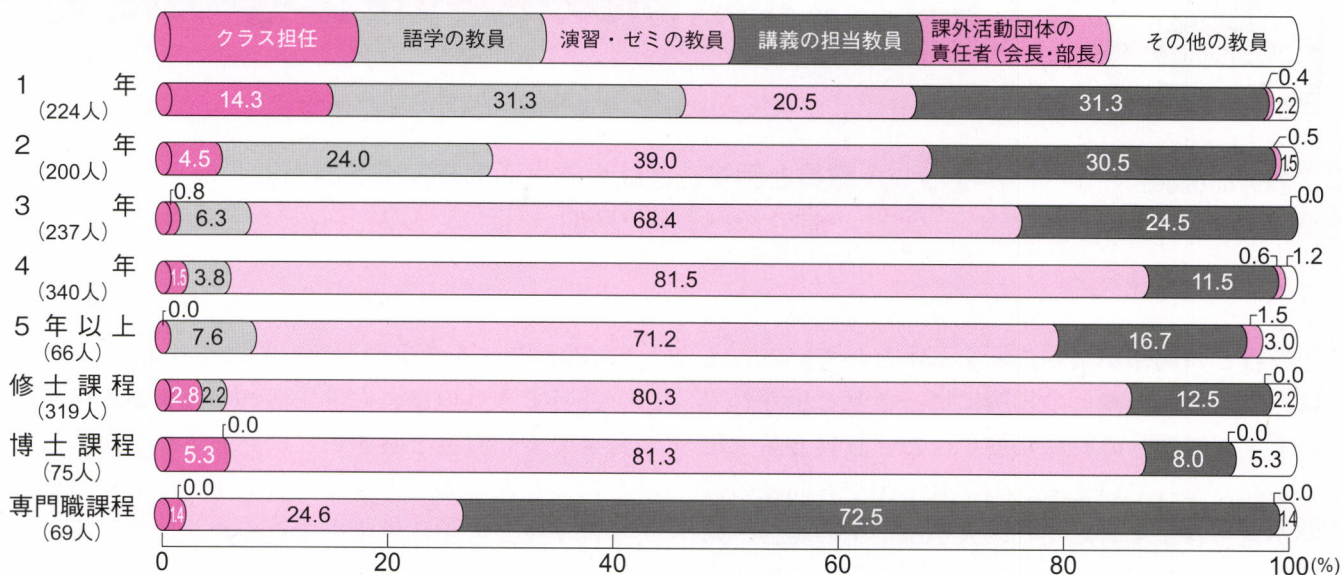


短時間でも教員と話をしていますか？

学年別



よく話をするのはどんな先生ですか？ 学年別

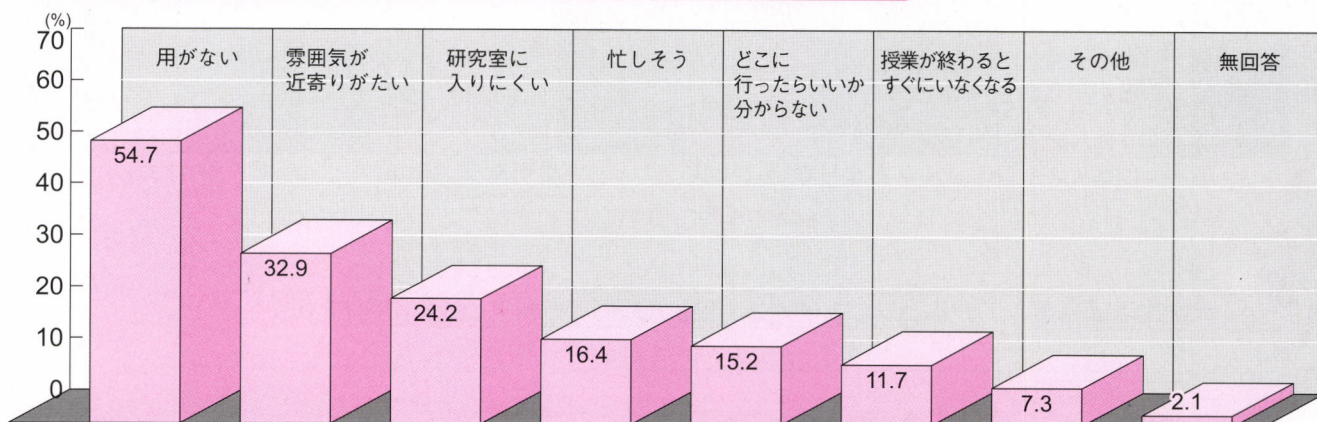


※この質問は、短時間でも教員と話していますかという質問で「している」と「たまにしている」と答えた人へのみ、回答を求めたものです。

学年や課程による差は、よく話す教員と密接に結びついています。学部学生の場合、1年生で「クラス担任」、1、2年生で「語学の教員」、3、4年生で「演習・ゼミの教員」が多くなっています。ゼミや卒論指導をきっかけとして、教員と接する機会が増えることが分かります。1、2年生では演習

やゼミが少ないことを考慮すると、これらの少人数科目を履修している学生は、担当教員と話す機会が多いことがうかがえます。大学院学生の場合、専門職課程では、修士課程、博士課程と異なり、「演習・ゼミの教員」よりも、「講義の担当教員」と話をする機会が非常に多くなっています。

教員と話をしにくい理由はどういうところにありますか？ [複数回答可]



※この質問は、短時間でも教員と話していますかという質問で「あまりしていない」と「していない」と答えた人へのみ、回答を求めたものです。

一方、話をしないという学生に対しては、その理由を尋ねました。この回答には、学部・大学院、学年による違いはほとんどありません。ただし、「どこに行ったらいいかわからない」という回答だけは、学部の1年生が大半でした。これは、調査実施時期が入学直後であったためと思われます。

回答の中では「用がない」が半数を超えています。教員との関係は学ぶことが基本です。それゆえ、学生には、自ら積極的に学ぶことを通して、

教員と話す必要を見いだしていくことが求められます。何らかの必要をきっかけに実際に接すると、教員からさまざまな話題が出てくる可能性があります。そこで、用があるにもかかわらず、「雰囲気有近寄りがない」、「研究室に入りにくい」と考えている人は、まずはチャレンジしてみましょう。本当に話しにくいかどうかは、実際に話してみないと分かりません。



教員との関係の基礎は学ぶこと

教員との関係



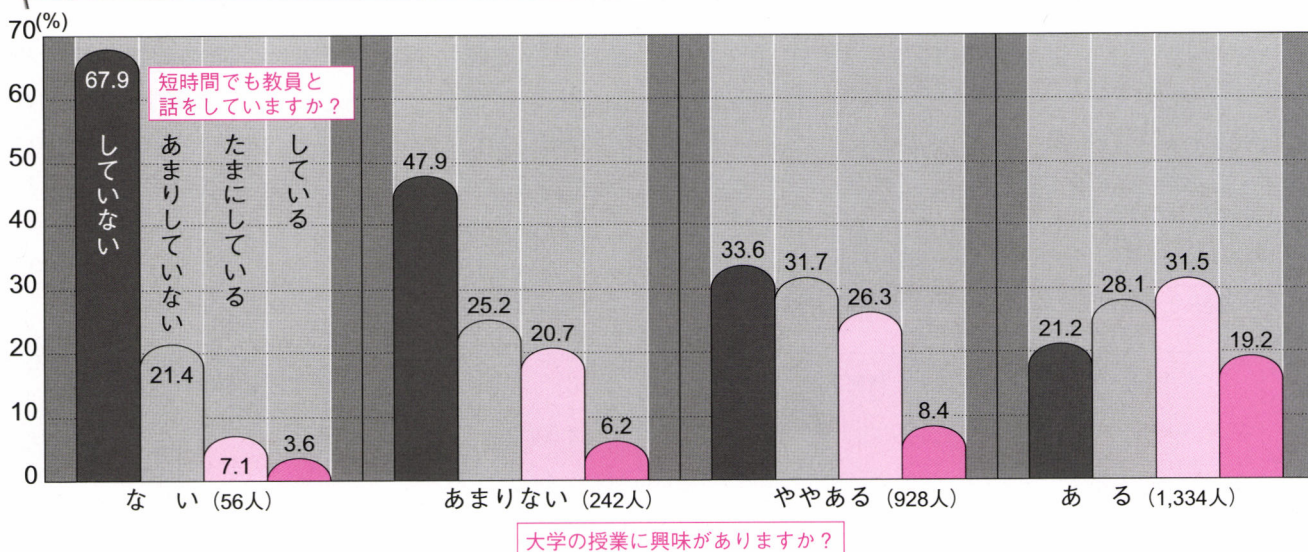
教員と話すことは大学生活の充実感を高める

教員との関係が学ぶことを基本としていることは、授業への興味との相関にはっきりと示されています。授業への興味が増すほど、教員と話す比率が高くなっています。大学院学生でも同様の傾向が見られます。ただし、大学院学生の場合、両方とも比率が高いため、話を「する」かつ興味が

「ある」という学生が半数近くになります。

注目できるのは、大学生活への充実感との結び付きです。教員と話することが、充実感を高めることにつながることを示唆されます。なお、これは学部学生と大学院学生をまとめたグラフです。

クロス集計 学部 大学の授業に興味がありますか？／凡例 短時間でも教員と話をしていますか？



クロス集計 大学生生活は充実していると思いますか？／凡例 短時間でも教員と話をしていますか？

